

ほんこさん

第1組上宮寺 小笠原 まや

今年も報恩講^{ほうおんこう}を迎える時期となりました。報恩講とは親鸞聖人のご命日を機として年に一度の真宗門徒にとって大切な仏事のことです。毎年自坊では満堂になることを願い勤めますが、今年は新型コロナウイルス感染症のため、感染予防として密にならないようにお勤めをします。今までとはまったく違うことを考える報恩講となります。「ほんこさん」と呼び、毎年、掃除、お斎^{とき}の準備などに大勢のお手伝いの方々にお世話になっています。特に台所は女性たちの熱意と炊き出しの香りにむせかえています。

以前、「寺は私の在所です」が口癖のおばあちゃんがおられました。ときどき自坊^{もんぼうかい}の聞法会にも参加されてみえました。お斎^{とき}の準備後、皆さんがまた内職を終え席を立たれた後、「なまんだぶ、なまんだぶ、ありがとうございます、ありがとうございます」と床にこぼれたご飯粒を一人、一粒一粒自らの口に運んでおられました。こんな何気ないおばあちゃんの振る舞いが本当に輝いて見え、ああ、確かに阿弥陀仏が生きておられるなあ実感できました。

親鸞聖人は、念仏もうさんと思い立つところがおこるときに、すでに大きな阿弥陀仏のいのちに包まれて確かな救いの利益の中にあると説かれておられます。

南無阿彌陀仏と称^{とな}えるとは、実はすでに大きな救いという光の中であって、本当の念仏に出あえるよう逆に阿彌陀仏から促^{うなが}しをいただくことになるのです。

このご時世、今年の報恩講さん、どんな新しい出会いができ、どんな教えをいただけるかと願う自分がいます。